# 生理学・薬理学CBT対策補習

科目責任者：藤　田　朋　恵（薬理学），神　作　憲　司（生理学）

## Ⅰ．前　　文

CBTは，臨床実習開始前の学生が，臨床実習で医行為を行うために必要な知識を身に付けているかを，全国共通の標準試験によって厳正に評価する試験で，医師国家試験に準じる重要な試験である。言い換えると，CBTに合格すると臨床実習に参加することができ，5年生へ進級できる。しかし，他の必修科目（講義，演習，実習合わせて25科目）の勉強がある中，不合格になる学生は少なくない。本科目では，生理学・薬理学の分野を補習するが，それらは病態生理と薬物治療に関する問題を解くのに役立つと考えている。

## Ⅱ．受入可能人数

人数は制限しない

## Ⅲ．担当教員

神　作　憲　司（生理学），野　元　謙　作（生理学），藤　木　聡一朗（生理学），藤　田　朋　恵（薬理学）

## Ⅳ．学習内容

CBTプール問題集などを用いて，問題を選ぶ。学生に事前に演習問題を配信し，講義前までに，できる問題を解答してもらう。講義当日は，教員により答え合わせと解説をする。解説の内容は，これまでの講義で教えた内容の要約を含める。

生理学２回，薬理学４回，全６回の予定，それぞれの講義は，事前問題の取り組みと当日の座学からなる。

## Ⅴ．学修の到達目標

「CBTの成績が本学の定める当該年度の合格基準に達する。」

「医学教育モデル・コア・カリキュラムの生理，薬理に関連する内容を習得する。」

## Ⅵ．成績評価の方法・基準

生理学：「マークシート方式の客観試験（全約20問）」

薬理学：「マークシート方式の客観試験（全約30問）」

合わせて，65%以上正解を合格とする。

## Ⅶ．使用する教材・資料など

使用する教材・資料

クエスチョン・バンク CBT 2019 vol.1: プール問題 基礎編

クエスチョン・バンク CBT 2019 vol.5: 最新復元問題

生理学：生理学の講義シラバスに記載している指定教科書または参考書，レジュメ

薬理学：薬理学Ⅰ，IIの講義のシラバスに記載している指定教科書または参考書，レジュメ

## Ⅷ．質問への対応方法

生理学：随時受け付ける。dokkyo-physiol２@dokkyomed.ac.jp

薬理学：随時受け付ける。fujita-t@dokkyomed.ac.jp，基礎医学棟4階居室429号

## Ⅸ．求められる事前学習，事後学習＊（　）内は所要時間の目安

事前学習：事前に配信された問題を可能な範囲で解答する。（20分。）

事後学習：事前配信された問題をすべて解答する。（20分。）

## Ⅹ．コアカリ記号・番号

生理学：C－2－1～3，D－1～14－1

薬理学：C－3－3，F－2－8

## Ⅺ．課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

事前課題の解説は講義内で行う。

## Ⅻ．卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | | |
|---|---|---|
| 医学知識 | 人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。 | ○ |
| | 種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。 | ◎ |
| 臨床能力 | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。 | |
| | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。 | |
| プロフェッショナリズム | 医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。 | |
| | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 | |
| 能動的学修能力 | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。 | |
| | 書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。 | |
| リサーチ・マインド | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。 | |
| | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。 | |
| 社会的視野 | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。 | |
| | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。 | |
| 人間性 | 医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | |
| | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。 | |